



職業の社会的距離と不平等構造に関する研究

人文科学系・人文社会学領域

林 拓也

教授

HAYASHI Takuya

社会学修士(東京都立大学)

■研究キーワード 社会学 / 計量社会学 / 社会階層論

■主な所属学会 日本社会学会, 日本数理社会学会, 日本行動計量学会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.faa14a033cc86f07520e17560c007669.html>



研究者総覧

研究概要

さまざまな集団間の関係を考えると、ある集団同士がどの程度近い／遠い関係にあるかを表す概念を「社会的距離」(social distance)と呼びます。その距離は、人々が日常生活を送る上で、また人生をたどっていく上で、他者や他集団との結びつきと分離の構造を表すものです。社会における格差・不平等の全体構造を実証的に捉えるために、計量社会学・社会階層論では職業間の距離を重要な指標として研究がすすめられてきました。その捉え方として、人々の主観的な認知、社会的属性(性別・学歴など)による違い、社会関係における結びつきの強さといった観点から、職業集団間の距離が測定されています(左下の書籍参照)。



林拓也『職業間距離の計量社会学』(ナカニシヤ出版)

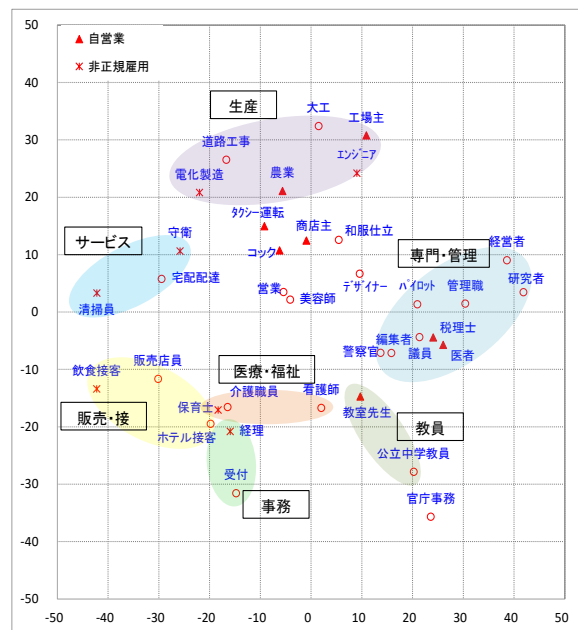


図1 人々の主観的認知に基づく職業の社会的距離の空間

研究のプロセス・研究事例

職業集団間の距離を測定するには、多種多様な職業従事者を対象とした社会調査を実施して、そこから得られるデータを統計分析にかけする必要があります。たとえば図1は、人々がそれぞれの職業をどの程度近い／遠いと思うかという「主観的な認知」に基づき、そのデータ分析に基づいて析出された2次元の社会空間です。その空間は、主に社会的地位による分離と、ジェンダーによる分離から構成されています。また、社会関係における結びつきからこのような社会空間を抽出することもできます。そのためには、社会調査において、どのような職業に従事する相手と結びついているのか／いないのか、具体的には家族・親せき・友人といった関係をもつ相手の中に、どのような職業従事者が含まれるのかを把握する必要があります。図2はそのデータ分析から得られた社会空間で、その空間上に、家族・親せきの職業(図中●)と、友人の職業(図中○)が分布しています。

それらの関係が多く観察される職業同士はこの空間において近く位置し、逆に少なくしか観察されない場合は遠くに位置します。

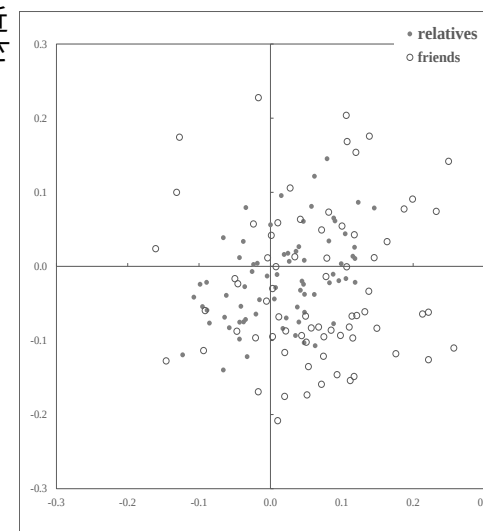


図2 社会関係に基づく職業の社会的距離の空間